

山梨大学 留学生 センターニュース



no.6
2009
OCT

今後の留学生受け入れについて

理事（教学・国際交流担当）

川村 隆明

留学生30万人計画にも現れているように、我が国では積極的に留学生を受け入れて行く方向に向かっていきます。本学の留学生センターも、留学生受け入れに対する長期的な見通しから誕生したものであり、今後ますますその重要性が増してくると予想されます。

留学生が日本の大学で教育を受け、研究することを決断するときに決め手となるのは、その大学が独自の価値や魅力を持つかどうかです。従来から、欧米諸国では、自国の学生に対する教育課程に留学生が入るのが暗黙の了解で、留学生の存在によって教育方針を変えるということはありません。このことは、我が国の大学においても、学生に対する教育課程を重視し、卒業基準を明確にすることが必要で、その上で大学を国際的に開放していく必要があるということを意味します。本学においても、何を身につけることができるか、本学の特色や魅力を明確にし、実行に移していくことが求められていると思います。



留学生センターでは、大学の通常の講義に必要な日本語の指導だけでなく、生活に必要な日本語の教育、教学面や生活面の支援を行なっています。これら個々の学生に対するきめ細かな指導を主軸に、山梨の地域性や文化を知る文化体験プログラムなどにも力を入れています。具体的には、ホーム・ステイ／ビジット、文化遺産や自然に触れる実地見学旅行、食べ物を通し地域の皆さんとの交流を深める餅つき地域交流会やたべもの異文化交流会、そしてぶどう狩りやワイン造り体験等、多様なプログラムを用意しています。今後もこうした試みを模索し、本学や地域の特色を生かした魅力あふれるプログラムを構築していくことで、留学生の勉学を支援していくことが重要だと考えています。

留学生センターの取り組み

日本語・日本事情教育

■ 学部留学生対象 日本語・日本事情教育

学部留学生を対象とする日本語授業は、「初中級」「中級」「中上級」「上級」「日本語演習」クラスが開講されています。また、日本人学生とともに日本の文化や社会についての理解を深める「日本事情」、異文化の理解と尊重を目標にした「異文化間コミュニケーション」の授業も開講されています。

■ 日本語補講

本学に在籍する日本語能力が十分でない大学院留学生および研究生などを対象に、日本語補講クラスが開講されています。入門レベルから論文作成レベルまで幅広いクラスがあり、甲府キャンパスと医学部キャンパスで提供されています。

留学生指導相談・文化交流

■ 留学生相談室

本学の全留学生に向けた、留学生のための相談室です。また、留学生に関わる日本人学生やチューター、教職員の方からの相談にも応じています。

■ 就職支援

2008年度後期には、留学生のための就職セミナーと就職講演会を、2009年度前期には就職ガイダンスを、本学のキャリアセンターの協力を得て開催しました。就職に関する書類の添削や助言等も留学生相談室で行っています。

■ 梨大国際交流実行委員会

2009年4月、留学生センターが支援する学生主体の学内国際交流団体（通称 NICE：Nashi. Uni. International Committee on Exchange）が発足しました。これまで留学生センターの教員が留学生と日本人学生の交流の場として提供してきた、ランチ会や話そう会を発展させ、留学生と日本人学生が主体となって企画・運営・実施するほか、様々なイベントも開いています。



ピクニック（遊亀公園）

日本語研修コース

研修コースIは、入門から初級前半レベルの大学院前の国費留学生、教員研修留学生、そして研究生と交換留学生を対象としています。基礎日本語を学び、日常生活の基本的なコミュニケーションができるようになることを目指しています。研修コースIIは、初級後半から初級終了レベルの国費留学生や研究生、研修コースIを修了した交換留学生を対象としており、円滑な勉学生活のために日本語力の向上を目指すコースです。



2008年度後期修了式



2009年度前期修了式

2009年度(平成21年度) 後期 日本語関連授業時間割					
	月	火	水	木	金
I 8:45~ 10:15		日本事情Ⅱ(伊藤)		初中級ⅡB(江崎)	
Ⅱ 10:30~ 12:00	初中級ⅡA(奥村) 上級Ⅱ(仲本) 研修Ⅰ(井上)	研修Ⅰ(下平) 研修Ⅱ(二宮) OH(伊藤)	中級ⅡA(仲本) 研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅰ(奥村) 研修Ⅱ(伊藤) OH(江崎)	研修Ⅰ(江崎)
Ⅲ 13:00~ 14:30	研修Ⅰ(井上) 研修Ⅱ(奥村) OH(仲本)	研修Ⅰ(下平) 研修Ⅱ(二宮)	研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅰ(奥村) 研修Ⅱ(伊藤)	中級ⅡB(伊藤) 研修Ⅰ(江崎)
Ⅳ 14:45~ 16:15	研修Ⅰ(井上) OH(奥村)	研修Ⅰ(江崎) 研修Ⅱ(江崎) OH(高田谷)		研修Ⅰ(奥村) OH(伊藤)	研修Ⅰ(江崎) OH(伊藤)
V 16:30~ 18:00	甲府・補講(井上) 甲府・補講(長阪)	異文化B(奥村) 中上級Ⅱ(江崎) OH(高田谷)	甲府・補講(長阪)		
Ⅵ 18:15~ 19:45			医学部・補講(二宮)		医学部・補講(岡部) 18:00~19:30
Ⅵ以降	医学部・補講(高田谷) 19:00~20:30		医学部・補講(二宮)		医学部・補講(岡部) 19:30~21:00

OH：オフィス・アワー

学生の声

不安も心配も初めだけ

シュテファン・クチャ

ドイツドレスデン工科大学より、1年間交換留学

以前どこかで聞いた「小春蝉」が鳴く声が聞こえる。甲府に来てから、早いもので1年が経った。来日は初めてのことだった。見るもの、聞くもの、体験するものが初めてのものばかりだった。例えば、道路の左側でバスに乗り、初めて入ったコンビニでは物凄く丁寧な日本語で話しかけられた。

日本に来た最初の日、チューターと指導教員の先生、国際交流室の方々、日本語の先生方が日本語で僕について話しているのは分かったが、話の内容はほとんど分からない。「今、別世界に着いたんだ」ということだけが分かる。今まで想像してきた日本を、やっと自分の目で見られるんだと期待と不安で胸を膨らませた。

それから1年後の今、日常生活にも慣れ、もう最初の頃ほどワクワクしなくなったが、日本語がある程度話せるようになり、一生付き合えるような友達もでき、日本人学生と同じように授業を取り、もうすぐ試験を受けようとしている。変化がゆっくり訪れてきたためか、今顧みて初めて気が付くことも多い。



新留学生へメッセージを送りたい。

「来日当初の心配はすぐなくなるので、平気です。住み慣れたら楽しめるようになります。山梨大学での生活をしっかり楽しんで欲しい。」

現在、本学と大学・部局間協定を結んでいる大学は約30校あります。そのなかで、交換留学の制度があるのは、シュテファンさんの母校、ドイツのドレスデン工科大学のほかに、英国のオックスフォード・ブルックス大学（OBU）、米国のイースタン・ケンタッキー大学（EKU）、フランスのリヨン第三大学があります。

また、短期の語学留学として、夏季英語研修（EKUとOBU）、次のページの田中彩子さんも参加した春季英語研修（カナダのブリティッシュ・コロンビア大学）もあります。

留学を考えている皆さんは、以下へご連絡下さい。

国際交流室（055-220-8373）、又は留学生センター奥村（055-220-8152）♪

語学留学をより充実させるために

教育人間科学部 国際共生社会課程
国際文化コース 2年 田中 彩子

2009年3月のカナダ ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）への語学留学生生活を思い出す度に最初に浮かんでくるのは、ホームステイのことである。そもそも私がUBC春季英語研修に参加することを決めた理由の一つは、ホームステイができることにあった。外国に自分のことを知っている人を増やすというのが私の長い間の夢で、ホストファミリーに会うのが何より楽しみだった。



With my host family on the last day of my home stay

ホストファミリーとの思い出は一ヶ月でたくさんできた。特にホストファザーのジェフは、私の英語のスキルを上げるために毎日夜遅くまで私と喋る時間を作ってくれた。カナダでの生活の中で一番長く英語を聞くことができたのも、一番英語を喋ったのも、このジェフと会話していた時間だったと思う。ジェフと会話していると、自分が聞いて話している言葉が英語だということをとまどき忘れる。ジェフは毎日「今日の質問は何？」と言って会話を始めてくれたのだが、本当に質問が思い浮かばない日は嫌だなあと思うこともあった。でも今思うと、ジェフとのあの時間がなかったら、あんなに英語に触れることはできなかったし、本当に多くのことを学べた貴重な時間だったと思う。今はジェフにとっても感謝している。

ジェフに教えてもらったことは、もし何かをうまく伝えることができなくても諦めないで喋り続けること、違う言葉で言うこと、ひとつの言い方だけに固執しないこと、家族の会話が聞き取れなかったら一人に焦点を絞ることなどである。実際にこれを踏まえて家族と会話していると、何と言えればいいかわからなくても、いろいろ言ううちに伝わるということがわかり、会話をより充実させることができた。ホームステイの良い点は、自分が英語を意識して聞こうとしさえすれば、すべての時間がリスニングの勉強になることであると感じた。

これから海外留学やホームステイをしようと考えている人には、分からないことはためらわずに質問したり、家族や現地の学生の何気ない日常会話を意識して聞いたりすることで自分から英語に触れていき、英語に囲まれた貴重な時間を充実したものにしてほしいと思う。私も一ヶ月のこの貴重な経験を決して無駄にしないように、これからも積極的に自分から話し、好奇心を持って行動することを心がけて英語の勉強を続け、異なる言葉や異文化の中で暮らす人たちともスムーズに交流し合えるようになりたいと思う。そしていつかまた私の第二の家族であるホストファミリーに是非会いに行きたいと思っている。

日本文化・山梨文化体験講座

■書道体験（2009年2月5日、2009年7月23日）

教育人間科学部の宮澤正明先生と大学院生の皆さんに、書道のご指導をいただきました。参加者たちは、書道の心得や歴史について、とても興味深く聞き入っていました。実際に仮名や漢字を書きながら、書き順や形、撥ねや払いなどにこだわって書くとこれまで以上に美しく書けることを体験し、次学期に「書道」の授業を履修したいと意気込む留学生も多く見られました。



■和紙漉き（2009年5月16日）

交換留学生が和紙作り体験に参加しました。身延町「なかとみ和紙の里」にて和紙を漉いた後、各自考えたデザインを和紙の上に色鮮やかに表現しました。でき上がった和紙はランプシェードとして使用することができるため、きっとすばらしいお土産となったことでしょう。

■歌舞伎鑑賞会（2009年7月14日）

山梨県立県民文化ホールで開催された松竹大歌舞伎の鑑賞会に、今年は13名が参加しました。第一演目の「伊賀越え道中双六」では、残念ながら大見得などの見せ場が少ないため、少々退屈した人もいましたが、第二演目の「奴道成寺」という舞踊では、華やかな舞台装置や、洗練された染五郎の舞いに、学生たちも身を乗り出して舞台に見入っていました。



■桃狩り体験（2009年7月19日）

桃のシーズン、留学生19名の参加を得て、笛吹市で桃狩り体験をしました。笛吹市で収穫される桃は季節によって種類が異なりますが、今回は酸味が少なく上品な甘さが特徴の「浅間白鳳」という品種が食べ頃でした。留学生たちはふっくらと紅く色づいた桃を注意深くもぎ取った後、ダイナミックにかぶりつき、太陽の光をたくさん浴びて育った瑞々しい桃の味を存分に楽しみました。



留学生関連の実施諸行事とニュース

■留学生餅つき地域交流会（2008年11月22日）

甲府市岩窪町の住民の方々と留学生との交流会が、約100名の参加者を得て甲府国際交流会館で行われました。留学生と地域の方々が協力してお餅をつき、その場でつくったのお餅に舌鼓を打ちました。その後、留学生によるスピーチや各国料理の提供、また、地域の皆さんからは和太鼓が披露され、最後に岩窪音頭を踊って交流を深めました。



■やまなし 大学スピーチコンテスト（2008年11月30日）

「やまなし 大学スピーチコンテスト」が山梨大学レンガ館で開催されました。今年は「私の夢」「私の感じた和の心」「私のふるさと」の3つの中からテーマを選び、山梨県下の大学に通う留学生が体験談を交えてスピーチを披露しました。受賞者6名のうち本学からは、工学部電気電子システム工学科4年劉譚さんが第1位に選ばれ、また教育人間科学部共生社会コース4年李蓮さんと大学院博士課程環境社会創生工学専攻3年羅朝暉さんが、審査員特別賞を受賞しました。

■学長主催 留学生懇談会（2008年12月5日）

貫井英明前学長主催の留学生懇談会が、甲府キャンパス学生会館で開催され、留学生や教員、県内国際交流関係の来賓の方々など、約200名の参加がありました。参加者たちは、心のこもったスピーチ、歌や楽器の披露などを通して、交流を深めていました。また、最後に「やまなし 大学スピーチコンテスト」の受賞者が紹介され、皆から大きな祝福の拍手を受けました。



■ホーム・ステイ／ホーム・ビジット（2008年12月13日～14日／2009年6月20日～21日）

2006年度後期から毎学期実施している行事で、2008年度後期、2009年度前期は、上記の日程で行いました。「日本の家庭は初めて」という留学生にとって、地域の方々と触れ合い、ご家庭の様子が垣間見られたことは、日本での素敵な思い出の一つとなったようです。また、留学生を受け入れてくださったホストファミリーの皆様におかれましても、これを機に一層留学生への理解と交流が深まればと願っています。

■第14回外国人留学生等研究発表会（2009年3月2日）

医学部キャンパス小講堂において留学生及び外国人研究者による研究発表会が行われました。医学領域から6名、工学領域から4名、教育学研究科から1名、計11名が、日頃の研究成果を英語もしくは日本語で発表しました。毎年このような研究分野の違いを越えた学術交流が行われることにより、本学の学際的研究がさらに進展するものと思われます。

■ 実地見学旅行 (2009年8月7日～8日)

益子、鬼怒川温泉、華厳の滝、日光東照宮に1泊2日で行きました。益子では大きな狸の焼き物に出迎えられ、一同「オ～」。益子焼きを見た後は、先生の指導のもと皿や花瓶を作りました。宿泊は鬼怒川温泉でしたが、夕食後ホテルのロビーで盆踊りがあり、留学生もその輪に混じって踊りました。2日目は華厳の滝と日光東照宮を見学し、華厳の滝の大きさや、東照宮の煌びやかさに驚いていました。



■ 留学生のための統計講座 (2009年8月11日～12日)

留学生のための統計講座（基礎編）が、総合分析実験センターの中本和典教授の協力を得て、医学部情報科学講義室にて実施されました。参加者は11名で、標本平均と母平均、偏差、t-test、 χ^2 -testなどの統計の基本的なテクニックを学びました。両日ともエクセルを実際に使用しながら行ったこともあり、具体的でわかりやすかったという感想が聞かれました。

■ たべもの異文化交流会 (2009年8月25日)

「第11回たべもの異文化交流会」に、今年も約100名の参加がありました。この会は、留学生と地域（中央市）住民との交流、食を通じた異文化への理解を深めることを目的とし、各国代表の留学生や地域の皆さんから母国の料理が提供されます。参加者たちは日本に居ながらにして国際色豊かな味に舌鼓を打ち、話を弾ませていました。幸い天候にも恵まれ、食後は餅つき、スイカ割り、盆踊りなどを楽しみました。



山梨大学留学生センター

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 TEL 055-220-8047/8373
MAIL yu-study-abroad@yamanashi.ac.jp